

2/10(土)毎度、倫理号です。早や2/10です。雪が解けと共に年度の時期になり  
まい。化率も順調で大。小多の仁事。ア。に。は。は。て。お。感謝です。

私は創業者で「後継者」とは息子が好くくはてます。私に  
が違ひます。違ひます。  
2024. 2. 10~2. 16

今週の

倫理

2月のテーマ | 喜働

1372号

## 幸せ道のアホ一鳥

経営者の仕事に向き合う姿勢は、従業員  
やお客様、さらには事業全体に大きな影響  
を与えます。

A氏は神奈川県で創業六十五年の洋菓子  
店を経営しています。

昭和三十四年に祖父が菓子の小売店・卸  
問屋を創業し、昭和三十九年には喫茶店、  
レストランを始めます。洋菓子をお客様が  
求める時代になることを予見し、昭和五十  
二年にはフランス菓子の製造販売を開業し  
ました。

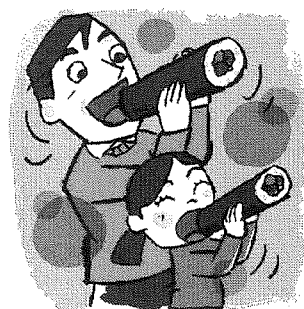
その後、二代目となる父は「多くのお客  
様にフランス菓子を召し上がっていただき  
たい」との思いから、最寄りの駅ビルに出  
店要請しました。しかし、駅ビルからの要  
望で当時流行していた京風ラーメン店を出  
店することになったのです。

京風ラーメン店で実績を残したことから、  
信頼を得て、フランス菓子販売での出店要  
請があり、駅ビルに販売店を構えることが  
できました。

現在は県内に十二の販売店を展開してお  
り、手づくりの製法にこだわりながら、約  
四百名のスタッフとともに働いています。

長男として生まれたA氏は、幼いころか  
ら「将来は会社の後継ぎ」と言われ続け  
てきました。平成十九年に入社後、経験を重ねる  
度に会社を守ることに、スタッフを守る  
ことへの重圧を感じるようになりました。

その後、父の勧めで後継者倫理塾に入塾  
し、倫理の学びを深めていたある日、塾の  
スタッフに父からの手紙を渡されたのです。



## 後継者としての自覚が 働き方を変える

手紙には次のような一文がありました。

「私にとつて貴方は三人目の子供で、長男  
として生まれた事で現在の仕事に携わり、  
責任ある立場を宿命づけられ、それに一生  
懸命に取り組んでいることに感謝したいと  
思います」

この手紙を読んだとき、父も分かってく  
れていたのだ」との安堵感から涙が溢れ、  
苦勞しながら店を守り続けてきた父への感  
謝の思いが深まり、「この店を守り抜く」と  
いう決意を新たにしたのでした。

そこからA氏の仕事に向き合う姿勢が変  
わっていきます。出社前には仏壇に手を合  
わせ「今日も一日、工場のスタッフが機械  
でケガをしませんように。すべてのスタッ  
フが元気で楽しく働けますように」とスタ  
ッフの安全を祈り、出社後は清掃、整理整  
頓に取り組みました。

またスタッフから提案や要望があった場  
合には、どのような内容であっても、まず  
耳を傾け、幹部にも同じようにスタッフの  
声を受け止めるように伝えました。

令和四年十月に社長に就任。その後も実  
践を続けたことで、職場の雰囲気は明るく  
なり、スタッフの定着率が上昇しました。

お客様にはリピーターも増え、販売店の会  
員カード利用者は三万四千人にものぼり、  
地域で愛される洋菓子店となっています。

歴史ある洋菓子店の後継者として、仕事  
の尊さを悟り、使命に燃えて働くとき、そ  
の働きは多くの人を喜ばせ、それは自らの  
喜びへとつながるのです。